

WORKTECH™ Tokyo

WORK / WORKPLACE / TECHNOLOGY / INNOVATION

EXPLORE THE FUTURE OF WORK AND THE WORKPLACE

オンラインフォーラム

2024年12月9日(月) 8:00 - 12月15日(日) 23:59

*7日間限定配信

EVENT SPONSORS

As of November 2024

KOKUYO



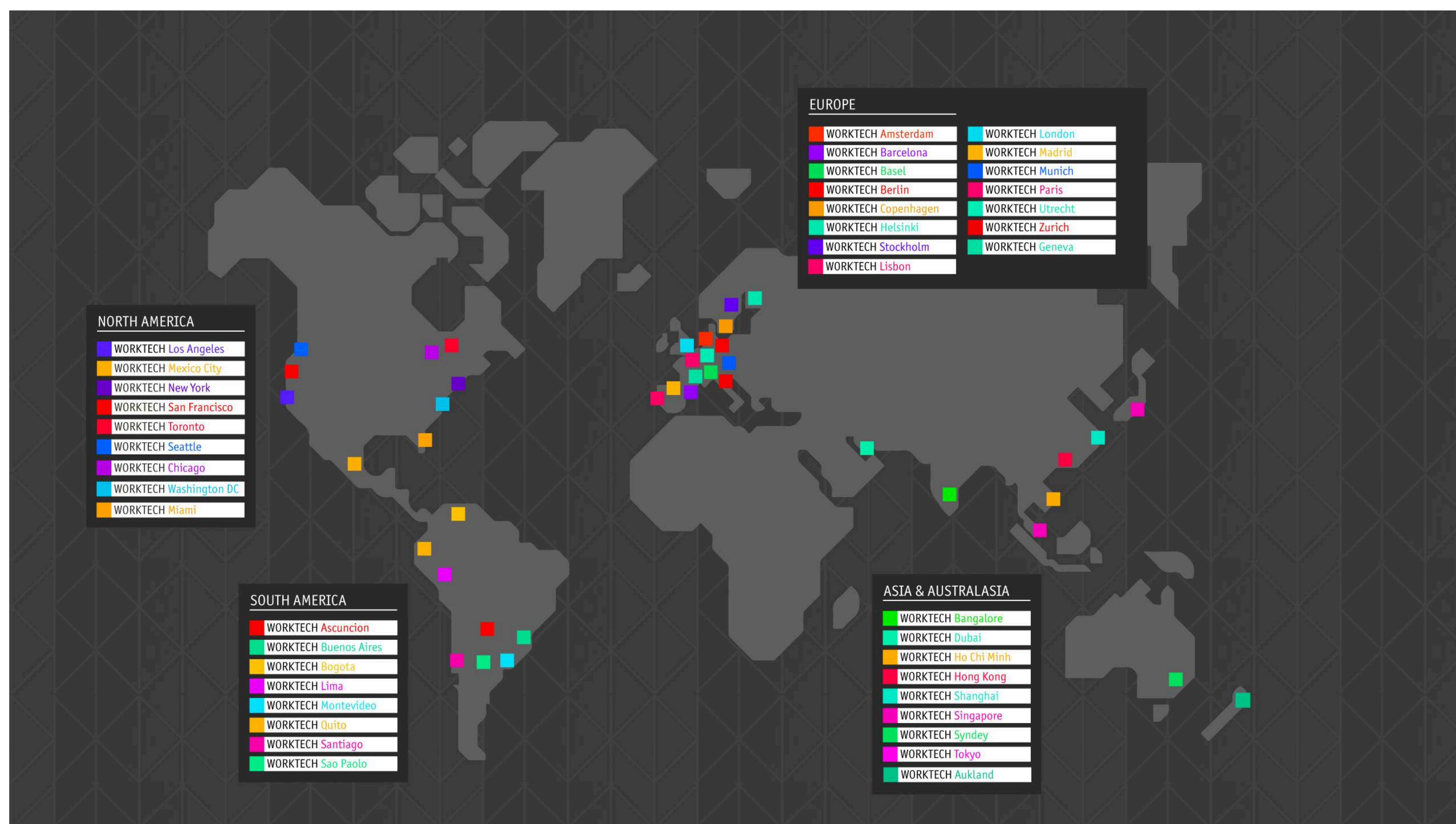
BUNSHODO

Worker's
Resort

WORKTECH ACADEMY

WORKTECHとは

WORKTECHは、仕事とワークプレイスの未来に関して、認識を深め、変化を促し、スペシャリスト達のインサイトを提供することを目的とした総合的なリサーチ・プラットフォームです。当フォーラムは、2003年にフィリップ・ロス氏とジェレミー・マイヤーソン氏によって立ち上げられた初の業界特化型カンファレンスを母体としており、現在ではワークプレイス・インテリジェンスに関する世界有数のカンファレンスであり、この分野における新たな思想形成や議論がなされています。



今年で設立21年目を迎えたWORKTECHは、今や世界40都市以上に拡大しています。フォーチュン500に名を連ねる先進的な業界のプロフェッショナルを集め、国際的なリーダーから学び、仕事とワークプレイスの未来について話し合い、考察する場を提供しています。

[過去のWorktechイベント開催地については、こちらをご覧ください](#)

WORKTECHは、仕事とワークプレイスの未来に携わるプロフェッショナルのための主要な国際フォーラムであり、学際的な講演、双方向のディスカッション、創造性を高めイノベティブ思考の限界を押し広げる事例共有を通じて、ワークプレイスコミュニティに新しいアイデアとインスピレーションをもたらしています。



企業のシニアエグゼクティブの意思決定者とのネットワーク

ワークプレイスの最新トレンドを知る機会



仕事とワークプレイス分野の世界的リーダーから話を聞く絶好の場

ベストプラクティスとイノベーションから得るインスピレーション



アジェンダ



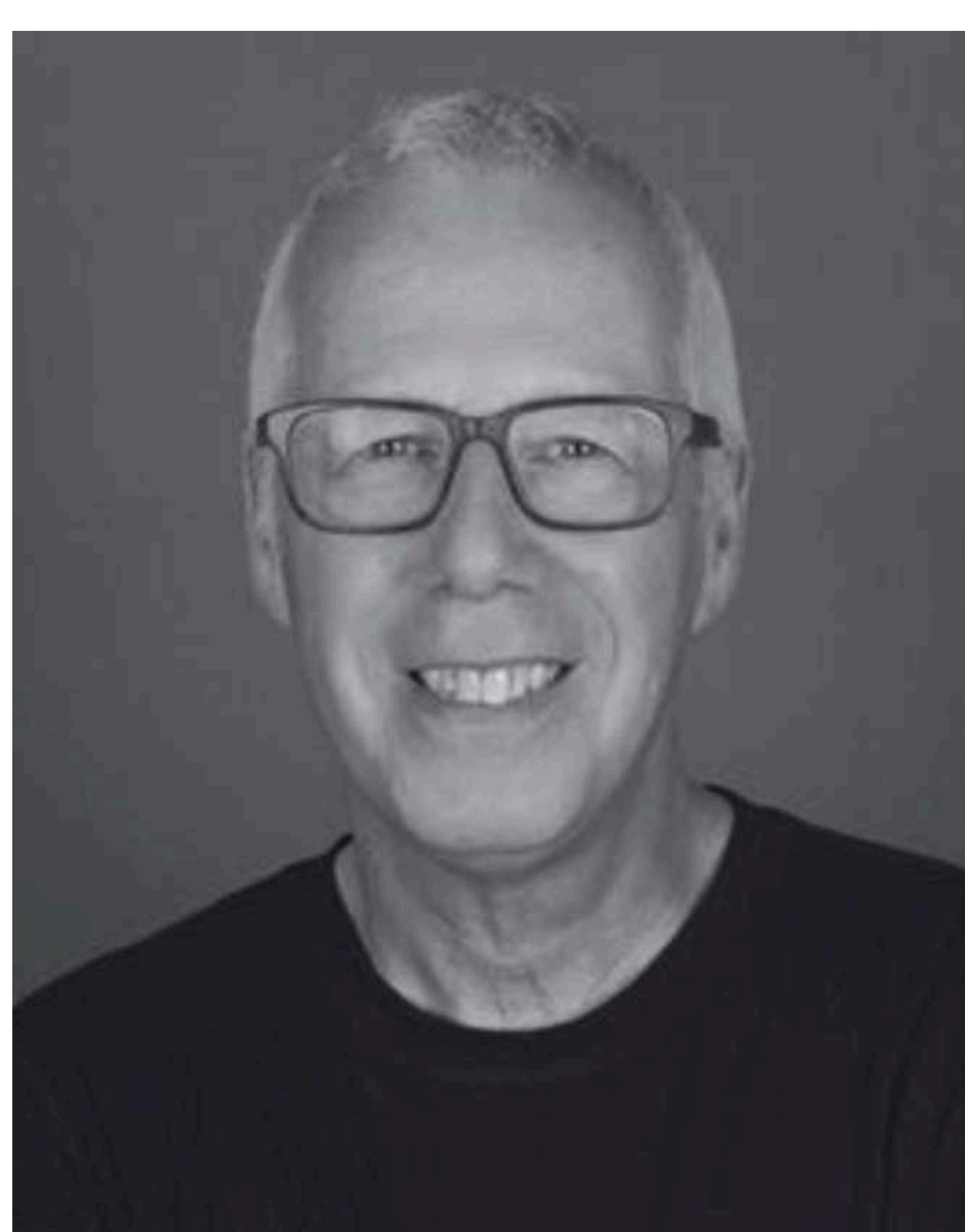
インクルーシブなワークプレイス：誰もが活躍できるスペースの創出とは

The Inclusive Workplace: Creating Spaces Where Everyone Can Thrive

当プレゼンテーションでは、先進的なワークプレイス環境や不動産の計画・設計におけるインクルーシブ デザインの重要性と、多様性、公平性、インクルージョンへの対応方法について掘り下げていきます。セッションでは、世界で最も先進的な企業がこの分野で取り組んでいる事例を紹介し、JLLが近年手がけた大規模なグローバルプロジェクトから得られた成果や教訓を共有します。

JLL UK&I Consulting部門責任者, Global Workplace Strategy Capability Lead
Guzmán de Yarza Blache, PhD (グスマン・デ・ヤルサ・ブラチェ博士)

20年の経験と建築学博士号を持つグスマン博士は、現在JLLのUK&Iコンサルティングチームを率いるとともに、Workplace Strategy Global Capability Leadも務める。大手のグローバル企業の新しい働き方への進化と、ポートフォリオ全体にわたる環境変化への素早い対応の実現を支援。学術研究者としても活躍しており、主にマドリードのIE School of Architecture and Designで、世界各国から集まった多くの世代のワークプレイスデザイナーやコンサルタントを指導。過去10年間にわたり、民間・公共両部門において、数多くの業界で大規模なグローバルワークプレイスの戦略プロジェクトを担当。企業文化の刷新と変更管理に重点を置く大規模で複雑なワークプレイスプロジェクトにおいて、豊富な経験を持つ。建築家として手がけた作品は国内外で受賞しており、そのプロジェクトは世界中の複数の建築専門誌で紹介され、現在は、建築環境における先駆的な DEIワークフレーム（ダイバーシティ（Diversity）、エクイティ（Equity）、インクルージョン（Inclusion））を主導。このワークフレームは、企業が自社の建築環境をDEI戦略に沿ったものにすることができるものであり、アクセシビリティ、男女平等、性的指向、性アイデンティティ、ニューロダイバーシティ、メンタルヘルス、民族性や文化など、様々な側面を網羅している。



オフィスへの不満

Taking Aim At The Office

ワーカー同士の連携が取れていない、居心地が悪い、不健康、排他的、刺激がない、目的にそぐわない...企業がワーカーをオフィスに戻そうと悪戦苦闘する中、ワークプレイスに対するよくある批判が急速に再浮上しています。しかし、オフィスに対する最もよく標的になるこのような不満を詳しく検証すると、その多くを解決するソリューションが現在開発中であることが明らかになります。このセッションでは、WORKTECHアカデミーのグローバルな知識ネットワークを活用し、ワークプレイスがこれらの批判に対してどのように反撃するのか、また、それが未来にどのような意味をもたらすかを探究します。

WORKTECH Academy • Royal College of Art (RCA) Research Professor
Jeremy Myerson (ジェレミー・マイヤーソン)

ワークプレイスのデザインとイノベーションの研究者、著者、活動家。Royal College of Art(RCA)のヘレンハムリンデザイン講座の教授であり、オックスフォード大学の客員研究員でもある。ワークプレイスデザインに関する影響力のある書籍を数冊出版しており、韓国、スイス、香港のデザイン機関の国際諮問委員会の委員も務める。Wired誌で英国のデジタルテクノロジー分野で最も影響力のある100人の1人に選出。デザインに関する研究への功績が認められ、2016年にRCAから名誉博士号を授与。



デジタルコーチング革命：コーチングテクノロジーによる社員育成支援の方法とは

The Digital Coaching Revolution: How to Support Employee Development with Coaching Tech

著書『The Digital Coaching Revolution: How to Support Employee Development with Coaching Tech』で、博士はデジタルコーチングテクノロジーが社員育成に与える変革的な影響について探求しています。また、パフォーマンスの向上、成長の促進、キャリアアップの支援にコーチングテクノロジーを活用するための包括的なガイドをご紹介します。

NYU ニューヨーク大学 Clinical Professor, Academic Director, Human Capital Management, Division of the Programs in Business
Dr. Anna Tavis (アンナ・タビス博士)

最新刊：『The Digital Coaching Revolution: How to Support Employee Development with Coaching Tech』は2024年初めに出版。博士はビジネスメディアに定期的に寄稿しており、ワシントン・ポスト、ブルームバーグ、ヒューマンリソース・エグゼクティブ、トレーニングマガジンなどでも引用されている。タビス博士のハーバード・ビジネス・レビューの記事「HR Goes Agile (2018年)」と「The Performance Management Revolution (2016年)」は、HBRの「Must Reads (2016年および2018年)」、「Definitive Management Ideas of the Year (2016年および2018年)」、および「Agile: The Insights You Need from Harvard Business Review (2020年)」に再掲載される。People+Strategy Journalの元編集長であり、現在はWorkforce Solutions Reviewの副編集長を務めている。ニューヨーク大学 (NYU) の教員となる前は、学术界、ビジネス界、コンサルティング業界で多様なグローバルキャリアを歩み、ロンドンを拠点とするモトローラ社のEMEA OD部門の責任者、ヘルシンキを拠点とするノキア社のグローバル人材管理部門の責任者、コネチカット州ハートフォードを拠点とするユナイテッド・テクノロジーズ社の最高学習責任者、ニューヨーク市を拠点とするAIGインベストメント社のグローバル人材および組織開発部門の責任者を歴任。プリンストン大学で比較文学の博士号、サウスカロライナ大学で国際ビジネスのエグゼクティブMBAを取得。



ハイブリッドワークの成功: 効果的なハイブリッド型ワークプログラムの構築とは

Hybrid Success at Scale: Building Effective Hybrid Work Programs

当セッションでは、ワークスタイルの未来を専門とするブライアン氏が、ハイブリッドワークのメリットと課題に関する最新の研究成果を紹介し、また、先進企業のケーススタディを通じて、利用率とワーカーのエンゲージメントを高める効果的なハイブリッドプログラムの構築方法を説明します。“ファシリティ（施設）”から“ファシリテーション（円滑化）”への移行や、ワークプレイス・人材・テクノロジーのリーダーシップの連携の重要性に重点を置き、コラボレーションスペースのROI（投資収益率）とチームが足並みを揃えるための戦略について考察します。

Leadership advisor、ベストセラー作家

Forbes誌「Future of Work 50」選出

Brian Elliott (ブライアン・エリオット)

リーダーシップアドバイザーであり、働き方の未来に関する著名な専門家。テクノロジー業界で25年間、スタートアップ企業のCEOやGoogle、Slackなどの企業の経営幹部を務めた後、働き方の未来に焦点を当てたシンクタンク、Future Forumを設立。また、ベストセラー『How the Future Works』の共著者であり、Forbesの「Future of Work 50」にも選出。幅広い組織との仕事を通じて得た実践的かつ戦略的なアドバイスと研究を基に、人々や組織にとってより良い未来の働き方の構築をリーダーたちに伝授し続ける。



ワークプレイスへの愛着 - デジタル時代の「場所」の役割とは

Workplace Topophilia - The Role Of Place In The Digital Age

「Biophiliaバイオフィリア」という言葉（「bio:生物・自然・生命」＋「Philia:愛着」から成る造語）は何年にもわたって流行語になっていますが、2024年には、新たに「Workplace Topophiliaワークプレイスへの愛着」という言葉が注目を集め始めています。「バイオフィリア」と似た言葉ですが、明確に異なる概念を表しています。場所への愛着です。場所を体験する方法、そして空間とつながる方法は人間に深く根付いています。しかし、私たちは実際にどれほど場所とのつながりを意識しているのでしょうか？テクノロジーは現在および将来において、私たちの空間認識にどのような影響を与えているのでしょうか？デジタル領域と物理的な領域の間の綱引きは現在進行中で、多くの人が認識している以上に私たちの健康に悪影響を及ぼしています。このインタラクティブなセッションでは、あらゆる感覚を刺激し、デジタル時代の場所の真の役割を明らかにします。

Spaceful Human Geographer & Workplace Strategyディレクター

Tica Masuku (ティカ・マスク)

数多くの受賞歴をもつワークプレイス戦略家であり、人文地理学者でもある。人と場所の相互関係を探求することに情熱を傾ける。専門知識と革新的なアプローチを駆使して、世界中の組織を変革し、ワークプレイスの環境と業務の最適化を支援。また、著名な講演および著者でもあり、ワークプレイス戦略に人間中心のアプローチをより多く取り入れることを提唱。ABC、BBC、The Project、The Australian Financial Reviewなど、さまざまなメディアでも取り上げられる。



築600年のビルとは

The 600-year-old building

私の最初に手掛けた高層ビルよりも私が長生きする可能性は十分にあります。私たちが建築環境を持続可能なものにしたいのであれば、設計寿命を全く新しい手法で考える必要があります。このセッションでは、600年の寿命を想定、つまり開発段階から数世代にわたる改築や改修を想定し設計されたコンセプトualな高層ビルを提案し、高層ビルの設計に対する新しいアプローチをご紹介します。

Gensler Europe シニア・アソシエイト、建築家、オフィス開発プラクティスエリアリーダー

Luke Askwith (ルーク・アスウィック)

ヨーロッパにおけるGenslerのオフィス開発業務分野を率いる建築家。2016年にGenslerへ入社以来、ワークプレイスの未来に情熱を傾けており、業務分野リーダーとして、Genslerのクライアントからの知見を活用し、未来のオフィスが私たちの働き方をどのように形作るかという視点から企業の対話や思想形成を行なっている。革新的なサステナブルデザインに焦点を当てた研究プロジェクトを主導し、ロンドン、ヨーロッパ、中東における複数の革新的なオフィスプロジェクトを手がける。その中には、ロンドンのMoretown 6番地にあるGenslerのヨーロッパ本社も含まれている。



停滞から活況へ

From Languishing to Flourishing

当セッションでは、米国で最もエキサイティングな新しいオフィスの一つを取り上げ、ケーススタディとして検証します。蔓延する停滞感が特徴的なパンデミック以前のモデルから、確固たる活況に支えられた未来にどのように移行するのかに焦点をあてます。その過程で、ハイブリッドワークのより大きな文脈において、私達を取り巻く物理的環境が行動に与える影響を追跡しようとするとき、その評価基準を開発するのに重要なカギとなる社会学由来の概念を模索します。

geniant co-founder, Physical Space 部門Chief Experience Officer

Illinois Institute of Technology イリノイ工科大学兼任教授

David Dewane (ディビット・ドウェイン)

geniant の共同創設者兼最高エクスペリエンス（空間）責任者。生態学および社会的に公平な設計の経験があり、テキサス州オースティンのCenter for Maximum Potential Building Systemsにて研修を受けた。この応用研究により、彼は企業の学びの場から小さな難民シェルターに至るまで、あらゆる規模の最先端の建築プロジェクトに貢献している。geniantでの彼の現在の役割は、デジタル世界と物理世界の統合を加速することにより、企業に革新的なエクスペリエンスを創り出すことに重点を置く。





持続可能性とワークプレイスのウェルビーイング

Holistic Sustainability & Workplace Well-being

本セッションでは、環境への責任とワーカーの健康の相互関係を探り、活気のあるワークプレイス環境を創り出す際、生物多様性への配慮・エネルギー効率の高いシステム・持続可能な素材の選択といったサステナブルな設計手法を統合することで、環境負荷を低減しながら、同時にワーカーの健康増進を実現する方法を学びます。ゲンスラーが顧客に導入する総合的なデザイン戦略は、サステナビリティとワークプレイス環境の健康を結びつけることで、ワークプレイス環境をより健康的で生産性の高い環境へと発展させます。また、このことが企業がサステナビリティの目標を達成するだけでなく、ワーカーの幸福とパフォーマンスをサポートする手助けにもなっているという点についても考察します。

Gensler Singapore, マネージング・ディレクター、プリンシパル
Angela Spathonis (アンジェラ・スパソニス)



シンガポール事務所のマネージング・ディレクターとして、同社の主要なビジネス戦略の開発と実行におけるリーダーシップを発揮し、今日の複雑かつ困難な環境を企業がうまく乗り切るための知見を提供。20年以上の経験と、複数の国々、セクター、市場にまたがるポートフォリオを持つ実績あるプロジェクトリーダーとして、チームやクライアントと緊密に連携し、持続可能なビジネスの創出と、地理的な境界を越えた多分野にわたるプロジェクトにおいて、デザインの卓越性を尊重し、さらに発展させる戦略的ソリューションを開発。クイーンズランド工科大学で建築環境学の学士号とインテリアデザインの修士号を持つ。



世界で最もスマートなSkyscraperに電力を供給

Powering The World's Smartest Skyscraper

22 Bishopsgateは、世界最先端のスマート高層ビルとして注目されています。世界屈指のオフィスビル群に並ぶ、印象的な建物です。当セッションでは、Smart SpacesのCEOであるダン氏が、ロンドンの開発に世界的な称賛をもたらしたテクノロジーについて説明します。とりわけ、スマートビルディングによく付随する複雑さや雑音を取り除くことにも言及しつつ、現代の開発の中心にあるワーカーのモチベーションについて深く掘り下げていきます。

Smart Spaces CEO
Dan Drogman (ダン・ドロッグマン)



ソフトウェア開発の起業家であり、Smart SpacesのCEO。不動産の主要な所有者や開発者にスマートビルディングソリューションを提供する。スマートスペースは、インターネット (IoT) のクラウドベースのプラットフォーム、スマートフォンアプリ、デジタルツインを通じて、ビルオーナーがサービスに新たな次元を加えることを実現。これにより、クライアントはオフィス環境を360度活用し、管理することができ、Apple Wallet機能を備えた安全な自動入室システムから、照明や暖房の制御、オフィスコンシェルジュとの連携まで、このテクノロジーは従来のビルオーナーや入居者の役割として大きな変革を導く。



ワークテック24東京の見どころ

Highlights of WORKTECH24 Tokyo

このセッションでは、コクヨ株式会社ワークスタイル研究所所属の金森氏が、国際的な講演者によるWORKTECH2024東京の講演内容から注目すべき重要なポイントを抽出し、さらにそれらを現在の日本の状況に当てはめながら要点を解説します。

金森 裕樹
コクヨ株式会社 WORKSTYLE RESEARCH LAB,
Workplace Researcher and Editor-in-Chief of Global Workplace Review

オフィス構築のコンサルタントとして活躍すると同時に日本でオフィス関連の権威ある研究誌「働くしくみと空間をつくるマガジンWORSIGHT(ワークサイト)」の編集を担当し、海外の先端ワークプレイスのリサーチを担当する。オフィスのみならず、大学など教育空間、官公庁など行政機関、図書館をはじめとする公共空間、コワーキング等サードプレイスなど働くに関わる多種多様な空間を幅広くリサーチ。ワークサイトの取材で得られた知見やトレンドを発信するセミナーをシンガポール・バンコク・クアラルンプールなどアジア7都市にて定期的実施。2019年にワークプレイス・コンサルティングを専門で教えるIE School of Architecture & Designの修士課程を修了。Global Workplace Review 編集長。

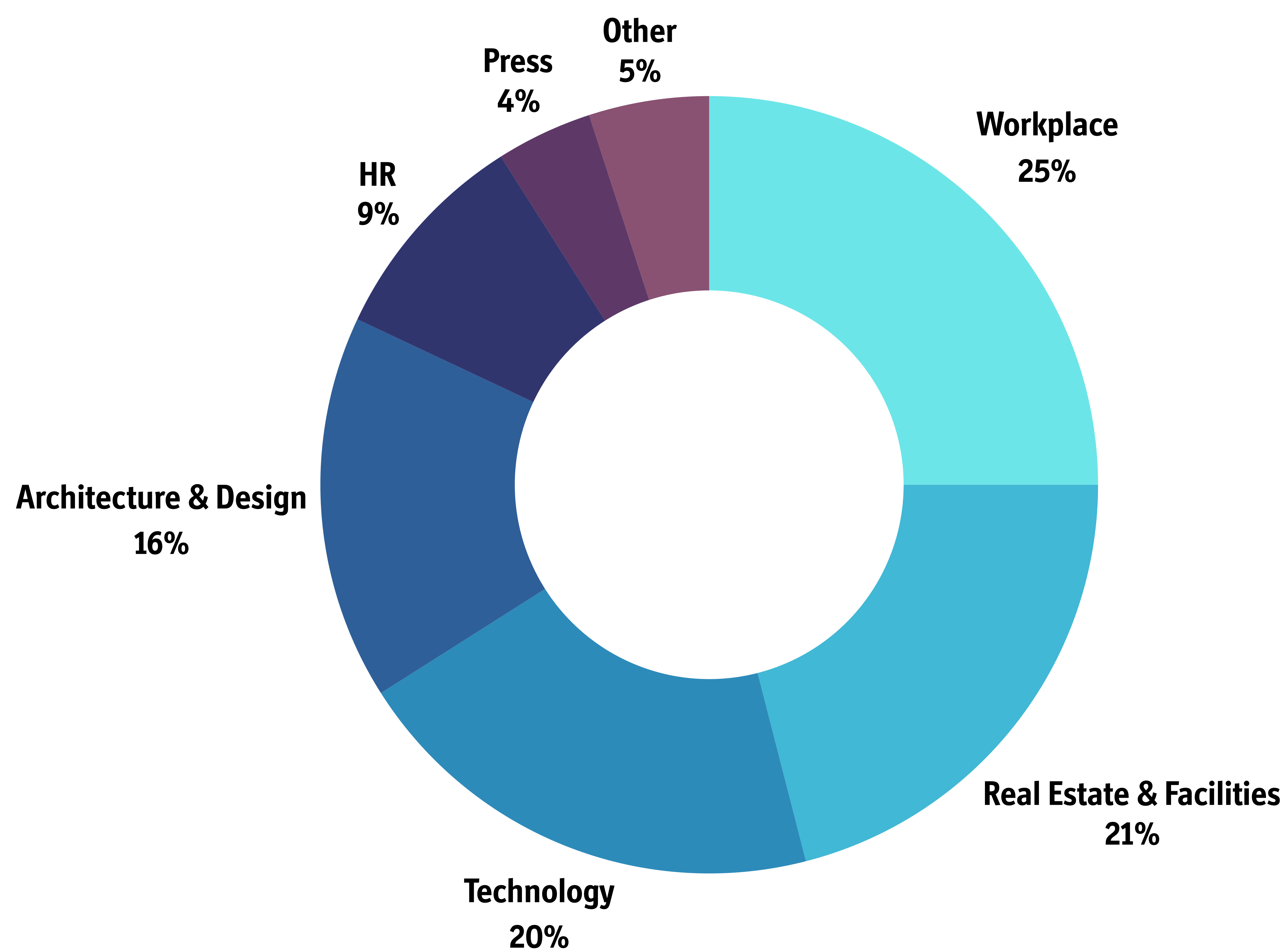


WORKTECH™ ACADEMY

WORKTECH Academyは、仕事の未来とワークプレイスを探求する、世界有数のオンラインプラットフォーム且つメンバーネットワークであり、世界をリードする知識が集結しています。世界ハイレベルのプロフェッショナル達とのグローバルコミュニティにより、最新のインサイト、リサーチ、ケーススタディ及び専門家へのインタビューを共有します。

WORKTECHグローバルネットワークを活用し、People(人材)、Place(働く場所)、Culture(企業文化)、Design(デザイン)、Technology (テクノロジー)、Innovation (イノベーション) の6つの主要分野においてWORKTECH Academyでは最新の知識とアイデアを収集することが可能です。

参加者 職種分布グラフ



非常に有益で、目を見張るような情報、
価値があるカンファレンス

LEGO レゴ 参加者の声



有益で、示唆に富み、よく計画され、
スピーカー陣も豊富。毎回新しい発見と出会えます！

UNILEVER ユニリーバ 参加者の声



参加申込は
こちら→

www.worktechevents.com/events/worktech24-tokyo